

競技注意事項

1 規則について

- 2020年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項によるもののほか次による。
- (1) スパイクのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投げのスパイクのピンの長さは12mm以下とする。
 - (2) 下記の種目は、制限時間を設け、時間超過した場合は競技を中止させる場合もある。
男子5000m（20分）、女子3000m（15分）、5000mW（40分）

2 競技場使用上の注意

- (1) 跳躍競技・投てき競技の練習は競技開始前、審判員の指示に従って行うこと。
- (2) セパレートを使用する競技では、競技者の安全のためにフィニッシュライン通過後も自分のレン（曲走路）を走ること。
- (3) 競走競技の決勝線到達後は第2ゲートより退場する。
- (4) 更衣室はできるだけ短時間の使用とし、選手の控室としては使用しない。使用後は後始末をし、貴重品は各自で保管する。
- (5) 投てき競技は、補助競技場で実施する。

3 招集について

- (1) トラック種目の招集所は、白波スタジアムバックスタンド下、200mスタート地点側に設ける。フィールド種目は、現地にて招集を行う。
- (2) 招集開始・完了時刻は競技順序のとおりとする。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当核競技種目を棄権したものとして処理する。
- (4) 招集の手順
 - ① 競技者は、上述（2）に示した招集開始時刻に招集場所に待機し、最終確認を受けること。
その際、ナンバーカード・競技用靴・衣類・持ち物等の点検を受けること。
 - ② 招集所は当核種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ③ 代理人による招集の最終確認は原則として認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻前までに招集所に届け出ること。
 - ④ 出場種目を棄権する場合は、招集開始時刻までに招集所に届け出ること。

4 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳、棒高跳における練習および競技中のバーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、下記のとおりとする。なお、気象条件等により変更することもある。

[男子]

走高跳 1.60（練習）1.65－1.70－1.75－1.80－1.83－1.86－1.89（以後3cm上がり）
棒高跳 2.40（練習）2.60－2.80－3.00－3.10－3.20－3.30－3.40（以後10cm上がり）

[女子]

走高跳 1.25（練習）1.30－1.35－1.40－1.45－1.50－1.53－1.56（以後3cm上がり）
棒高跳 1.80（練習）1.90－2.00－2.10－2.20－2.30－2.40（以後10cm上がり）

5 競技用具について

- (1) この大会に使用する用具は競技場のものを使用する。ただし、各自用意した棒高跳用ポールは、競技開始前に跳躍審判員の検査を受けること。
- (2) 投てき競技で、各自用意した円盤、やりを使用するときは、競技開始120分前から70分前までに補助競技場器具庫で検査を受け、承認された器具については使用できる。
- (3) 棒高跳、投てき競技に使用する滑り止めは感染症予防のため準備しません。各自で必ず持参して下さい。

6 練習について

- (1) ウォーミングアップ及び練習は、補助競技場で行うこと（通行人等の妨げや事故のないよう安全に留意すること）。ただし、指定された時間内において、本競技場での練習を許可する。
- (2) 練習については、練習場係に従うこと。
- (3) 投てき練習は、競技時間前の競技場内に限る。
- (4) 練習会場使用日程は次の通りとする。

本競技場	7：30～8：30 1～3レーン 長距離 4～8レーン 短距離
補助競技場	18日(土) 7：30～17：30 19日(日) 7：30～16：30 1～3レーン 長距離 4～8レーン 短距離

- (5) バックスタンド下（雨天練習場）は、使用可としますが、密集、密接に気をつけること。

7 その他

- (1) 事故発生については、主催者は応急処置のみを行い、他の一切の責任は負わない。
- (2) 競技会で使用する略語・略号について

NR：日本記録、NHR：全国高校記録、PR：県記録、PHR：県高校記録、PCR：県中学記録
GR：大会記録、DNS：欠場、DNF：途中棄権
DQ：失格、○：有効試技、×：無効試技、－：パス、r：試技放棄
- (3) 新型コロナウィルス対策については、鹿児島陸上競技協会のHPをご覧ください。